

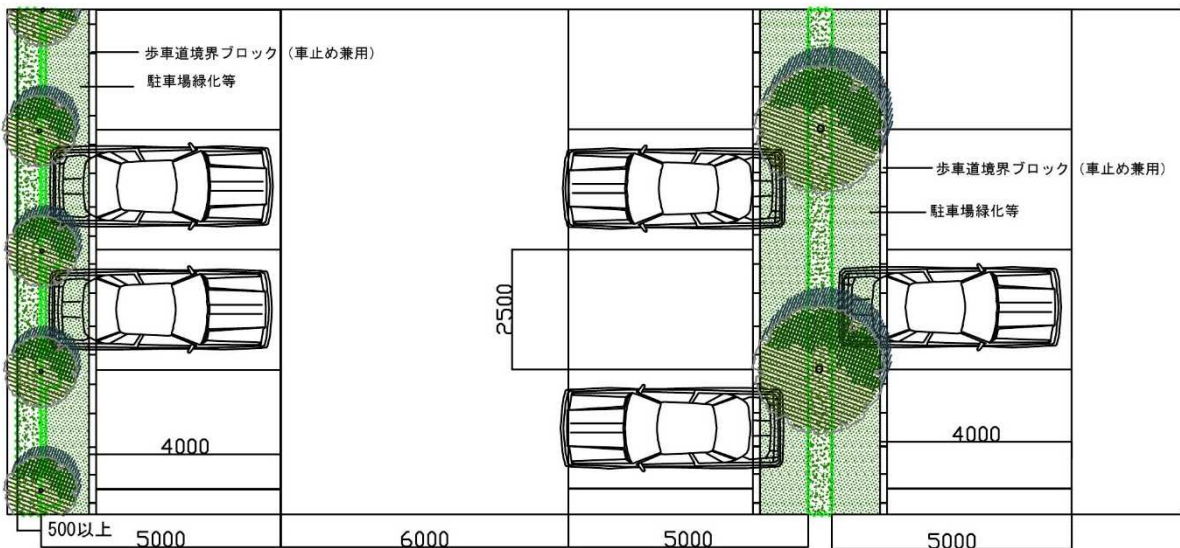
1. 駐車場の緑化

車止め部分の後部部分を緑化し、浸透トレッチや通気・透水管を敷設し、雨水浸透設備にすることにより、緑の景観形成のみならず、樹木の健全な生育と雨水浸透施設面積の拡大につながる。

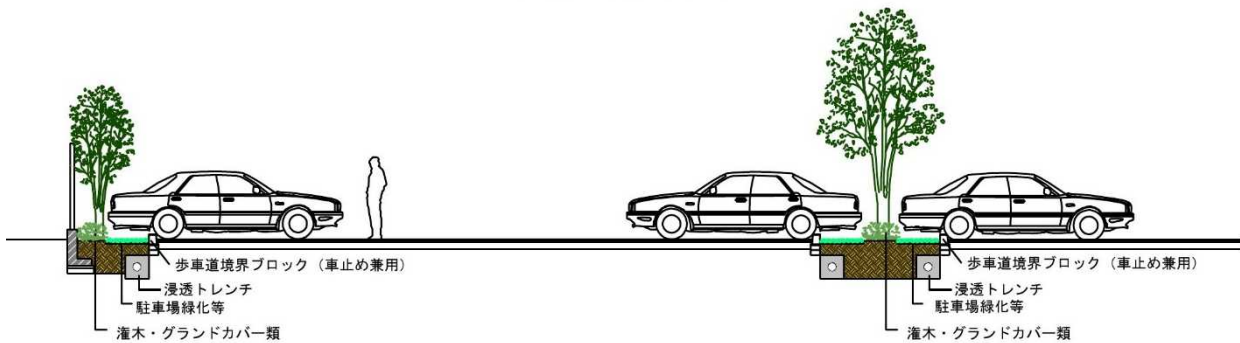


・一般的な駐車場の車止め後部

・緑陰のある駐車場(沖縄)



駐車場緑化平面図 (例)



(図1) 車止め後部を緑化し、透水トレッチを設置した駐車場の断面例

2. 駐車場の植栽・緑化での留意事項

- ① 車に影響を与えない高木を植栽する。樹液が垂れるマツ類、花ガラが車を汚すサクラ類、実が落ちて車に傷つける心配のあるトチノキ、実が落ちて汚す心配のあるヤマモモ(雌株)、イチヨウ(雌株)、ドングリをつけるマテバシイ、シラカシなどは植えない。
- ② 車止め後部の緑化を検討する。車止め兼用の歩車道境界ブロックを設置して、後部をグランドカバーと常緑高木で緑化する。高木の位置はライン上に配置する。グランドカバーはヘデラ類やビンカミノールなどの背の低いものを植栽する。基本的には前向き駐車するように規制するのが望ましい。一般的な後ろ向き駐車の場合は荷物の出し入れと高木の根の伸長を考慮して平板敷きとする。平板の目地は 10 cm前後とし、シバやイワダレソウ、タマリユウ、ヘデラ・カナリエンシス等を植栽するのが望ましい。
- ③ 浸透レンチや浸透ますは緑地の内部に設け、植物に水を供給するようにする。また、高木を植える場合には、縦引きの通気・透水管を敷設するのが望ましい。
- ④ 使用頻度が少ない駐車場では、透水性の芝生舗装が望ましい。雨水の地下浸透、緑化による輻射熱の軽減等、環境に配慮した駐車場になる。人の通行が頻繁な駐車場やハイヒールなど利用者がある場所では、一部一般の舗装にする。
- ⑤ 藤棚の設置やフェンス等の壁面緑化がある。



・車止め後部を浸透レンチ敷設の砂利敷の駐車場



・車止めと縁石を兼用し、緑地とした例



・タマリユウのコンクリートブロック製の透水性芝生舗装にした緊急用の駐車場



・個人住宅の車が乗り入れない部分を緑化した縦列駐車場



・合成樹脂製透水性芝生舗装の駐車場



・コンクリートブロック製透水性芝生舗装の駐車場



・金網補助資材使用の駐輪場の壁面緑化



・金網補助資材使用の立体駐車場の壁面緑化



・ヤシマット併用金網補助使用を使用した立体駐車場の壁面緑化



・藤棚設置の駐車場(沖縄)